

- ・「バルカン」と付き合いってきた40年
- ・富川市民音楽団「ウマクノリト」コンサート
- ・おススメの本 「私がしたことは殺人ですか」
- ・市政の動き

「バルカン」と付き合いってきた40年



月村太郎

(同志社大学政策学部教授、神戸大学法学部名誉教授)

歴代研究員からのご寄稿No.4

私が川崎地方自治研究センターの研究員だったのは、1990年4月から92年3月です。1983年3月に東京大学法学部を卒業後、助手に採用されて研究者の道を歩み始めました。『クォーターリーかわさき通信』の前号に寄稿していた野上和裕さんは、同期の助手です。ただ、野上さんが3年と半年の助手の期間を終えて、自治研センター研究員になったのと異なり、私は、助手在任中の1984年9月から86年3月まで、ユーゴスラヴィア社会主義連邦共和国（以下、ユーゴと略称します）に留学していました。そのこともあって、助手時代は1983年4月から88年3月までの5年間でした。

クロアチアへの留学

ユーゴはいまではもうなくなってしまいました。1991年からの4回にわたる内戦などにより、かつてのユーゴの国土からは、スロヴェニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ（一般にはボスニアと呼ばれています）、セルビア、モンテネグロ、マケドニア（2019年に北マケドニアに国名が変わりました）、コソヴォの7ヵ国が生まれました。私が留学

していたザグレブ市は、現在ではクロアチアの首都となっています。因みに、クロアチアの港町のひとつ、リエーカ市は川崎市にとっての最初の姉妹都市です。ついでに、ザグレブ市は京都市の姉妹都市です。

現地語のクロアチア語が全く理解できないまま、無謀な留学が1984年9月に始まりました。クロアチアではザグレブ大学哲学部に併設されていた外国人用のクロアチア語学校に通いました。ザグレブ大学入学の前提のひとつが、この学校の卒業でしたので、同級生は18歳、19歳の若者が多く、大半は中東諸国からやってきました。クロアチア人の教師がクロアチア語のみで行う教授法でした。学生生活は翌85年の6月まで続きました。当初は、郵便局で航空使用の封筒を購入しようとしても、窓口で全く英語が通用せず、長い行列が後に続き、回りから舌打ちされるなど、悲しい思い出がいっぱいの毎日でした。留学の開始日から帰国までの日数を数えていたほどです。それでも、留学して半年も経つと、クロアチア語を次第に理解できるようになりました。そのときに不思議なことが起こりました。路面電車

を電停で待っていたときに、ショーウィンドーにアジア人が映っていました。大柄なクロアチアの人々に混ざって、足が短いアジア人がいたので、あれは誰かと思ったら、何と自分でした。自分がクロアチア人だと思い込んでいたのでしょう。クロアチア留学の後半は、書店と公文書館、受け入れてくれたザグレブ大学教授の研究室をぐるぐる回りながら、過ぎていきました。500キロに上る資料を郵便局から毎日送るので、日本で本屋でも始めるのかと、からかわれながら、それはそれで楽しい毎日でした。

帰国してから1年半で助手論文を書き上げ、5年間の助手の期間を1988年3月に満了した後に、池袋のサンシャイン60にあった行政管理研究センターの研究員を経て、自治研センターに辿り着きました。

自治研センター研究員として

当時の自治研センターは、川崎競輪場の近くの川崎市労働会館にあり、私は、実家があった狛江市から小田急線と南武線を乗り継いで通っていました。センター研究員の活動は多岐に渡り、個々の活動内容ははっきりと覚えていないのですが、ふたつの仕事はしっかりと記憶に残っています。まず、『自治研センターニュース』にコラムを定期的に寄稿する機会を与えてもらい、それが私が考えていること、思っていることを色々なひとにどのように伝えればよいのかのトレーニングの場となったことです。そして、『クォーター』の前号に訃報が掲載されていた妻重度さんと地方公務員採用における国籍条項撤廃に向けた仕事で御一緒し、「民族」についてじっくり考える機会を与えてもらったことです。前者は研究者や教育者としての中心的な営みの基礎訓練であり、後者は私の研究において一貫した柱である民族問題に関する考察に繋がっています。その他、2泊3日、車中2泊の甲子園夏の大会への応援ツアーなど、楽しい思い出も数多くあります。お会いする組合員の皆さんはみな優しく接してくれました。

自治研センターの毎日は、このように、いまの自分の一部を作り上げてくれました。色々な意味で緊張することもあり、様々な立場のひとに会うこともできました。学部生から助手、そのまま大学の助教授（現在の准教授）、教授になるという道を歩んでいたら、とてもできなかった貴重な経験を与えてくれた自治研センターにはいまも感謝しているところ

です。

研究員の仕事の合間を縫って、神奈川大学、法政大学、成蹊大学の非常勤講師も務め、自治研センターで濃密な2年間を過ごした後、1992年4月に神戸大学法学部に助教授として赴任しました。「箱根の関」より西に住んだことのなかった私にとって、初めての関西でした。それから33年間、関西暮らしの期間は人生のちょうど半分となりました。2008年4月には神戸大学から、いまの職場である同志社大学に異動したことで、居所は神戸から京都へと少しは東に移動しました。いまでは、話す言葉の抑揚が、意識せずとも若干関西風になりました。これがまた、民族間関係を研究している身にとって、非常に興味深いところなのです。

自治研 センターニュース	1990. 4. 10 No. 88 発行責任者 深堀義孝 川崎地方自治研究センター 電話 044 (241) 7919
-------------------------	--

専任研究員 2 名体制へ

— 第 1 回理事会の報告 —



月村 太郎氏
 ・主な研究テーマ 東
 歌のナショナリズム
 ・趣味 料理（作るこ
 とと食べること）
 ・これからの抱負 明
 るく楽しく一生懸命
 頑張りますのでよろ
 しくお願いたします。

第 1 回理事会が市労連ビル5階において 3 月 29 日(水)に開催された。

これまで自治研センターの専任研究員は、佐藤雄毅氏 1 名であったが、4 月より月村太郎氏(写真)が加わり、2 名で担当することになった。

月村氏は1983年に東京大学法学部を卒業の後、東京大学助手、(附)行政管理研究センター研究員等の職務についていた。

今後も神奈川大学、法政大学で講師として教鞭をとるかたわら、自治研センターに新しい方として加わることになった。

シェフィールド大学川崎受入れをはじめ、講演会、各種研究会等自治研センターの仕事も拡大しつつあるが、より充実した活動をめざしてゆく予定である。

その後の私の仕事

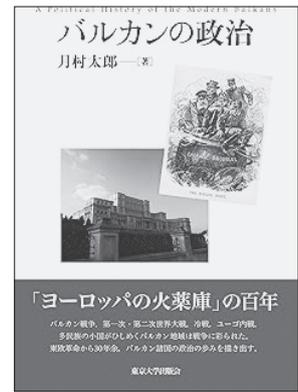
これまでに4冊の単著を上梓してきました。1994年11月に出版された『オーストリア＝ハンガリーと少数民族問題』（東京大学出版会）は、ザグレブ留学中に集めた資料を基に執筆した助手論文に加筆修正したものです。オーストリア＝ハンガリーというよりも、一般的にはハプスブルク帝国として知られるこの国家は、第一次世界大戦には敗れた結果、解体されました。この本のなかでは、ハプスブルク帝国の一部であったクロアチアの19世紀の政治を整理しました。その後、多民族国家であるオーストリ

ア＝ハンガリーの全体像を明らかにしようと、1994年9月から96年9月までハンガリーのブダペシュト市にも留学し、ハンガリー語（マジャール語）を学び、ザグレブ留学時代と同じく、大量の資料も購入しました。当時はボスニア内戦の真っ最中であり、ハンガリーのテレビや新聞のトップニュースは、ユーゴ解体に関するものでした。

ユーゴ解体の影響は、私の帰国後の研究にも大きく及んできました。ユーゴ研究者の数が少なく、本来は19世紀のクロアチアを研究していた私にも、ユーゴの現状分析の仕事が沢山やってくるようになりました。小さな仕事を適当にこなしているうちに、ユーゴ解体の考察に本格的に取り組んでみようと思ふに至りました。その結果が、2006年9月に出版された『ユーゴ内戦』（東京大学出版会）です。この本では、ユーゴ解体の際に生じた大規模な内戦であるボスニア内戦を中心にして、それに関わったセルビア、クロアチア、ボスニアで発行されていた新聞の記事を主たる資料として、セルビア人、クロアチア人、ボスニア人の政治リーダーがどのように行動したかを自分なりに明らかにしました。

元来飽きっぽい私の興味は、ユーゴから外へあふれだしていきます。当時、ユーゴの解体に伴う内戦と同じようなことが世界のあちらこちらで起きていました。そうした事例について、一冊に纏めておきたいと考えたのです。そうしたことから、ユーゴにかつて属していたクロアチア、ボスニア、コソヴォの事例に、スリランカ、ルワンダ、キプロス、旧ソ連のナゴルノ・カラバフの事例を加えて執筆したのが、岩波新書として2013年6月に出版された『民族紛争』でした。

あふれた興味は、ユーゴが位置するバルカン地域



全体の歴史にも及んでいきました。詳しくはあとで触れますが、バルカン地域では、19世紀から次々と独立国家が誕生しました。しかし係争地を抱えるなどの理由から、新たな独立国家同士の関係は必ずしも良好ではなく、現在でも隣国関係がうまくいっていないケースもあります。そうしたバルカン地域の19世紀後半から2022年までのバルカン政治を纏めたのが、2023年9月に出版された『バルカンの政治』（東京大学出版会）です。

現在の職場の定年が70歳、いまの私の年齢が65歳なので、纏まった研究をもう少ししてみたいと思っています。ということで、ここからは、私の主要な研究地域であるバルカン地域について書いていきます。

バルカン地域とはどこか

現在のバルカン諸国が描かれている「地図1」を御覧ください。一般的にバルカン地域とされる国々は、クロアチア、ボスニア、セルビア、モンテネグロ、コソヴォ、北マケドニア、アルバニア、ギリシャ、ルーマニア、ブルガリア、モルドヴァです。ト

〔地図1〕



月村太郎『バルカンの政治』（東京大学出版会、2023年）xiv頁



ルコのイスタンブール付近もバルカン地域に含まれます。このうち、クロアチアは自国がバルカン諸国ではないと強く否定し、逆にクロアチアの北隣のスロヴェニアは、本来はバルカン地域に含まれませんが、1918年から91年までユーゴの一部でしたので、便宜上、バルカン諸国に含めて扱われることが多いようです。また、モルドヴァは1991年にソ連から独立した後に、バルカン諸国に含まれるようになりました。

バルカン地域とは、オスマン帝国に長期間統治されていたヨーロッパ南東部の地域であると言えます。13世紀末にアナトリア高原に生まれた小さな国が、周囲との戦争に勝利した結果、国土を拡大させて、16世紀初めにはウィーンを包囲するまでの強国であるオスマン帝国へと成長していきました。しかしながら、オスマン帝国はヨーロッパ列強との戦争に敗れた結果、1699年に結ばれた条約以降、ヨーロッパの領土を失っていきます。アナトリア高原から北西に拡大した領土は、今度は南東へと縮小していくのです。かつてのオスマン帝国領には、ロシア帝国が北から影響の拡大を図る一方で、ハプスブルク帝国が東へと進出していきます。こうしたロシア帝国の「南下」とハプスブルク帝国の「東進」というふたつのベクトルが衝突した場所がバルカン地域でした。そして、バルカン地域の中央に位置するサラエヴォにおいてハプスブルク皇位推定後継者夫妻が暗殺された「事件」が、第一次世界大戦開戦の引き金になりました。

いずれも新興独立国であったバルカン諸国の多くは、完全独立の前に半独立とも言うべき「自治公国」の時代を経験しますが、ここで完全独立の時期を列挙してみましょう。最初はギリシャの1830年、続いて1878年にはセルビア、モンテネグロ、ルーマニア、1908年にブルガリア、そして1913年にアルバニアが独立を承認されました。撤退しつつあったとはいえ依然として大国であったオスマン帝国、南下するロシア帝国、東進を目論むハプスブルク帝国の合間に、バルカン地域の小国が対立や同盟をしながら、自国の存続や国土の拡大を図っていきました。

俗に「バルカン化」という言い方があります。「バルカン化」とは、「大きなものから小さな単位が独立し、それらの小さな単位同士の関係が敵対的になる」ことを意味します。それはまさにこの

時代からのバルカン地域を示しています。しかし「バルカン化」という言い回しは、国際政治の文脈でしばしば普通の言葉として使われます。それは、「バルカン化」したバルカン地域のマイナス・イメージが、いかに有名であったかということの証拠でもありました。そうしたイメージは、アガサ・クリスティの名作『オリент急行殺人事件』の一節からも窺われます。最初の殺人事件が明らかになった際に、そこがバルカン地域であったと分かったときの発言です。

「では、あのバルカン山脈の中の。ああ、万事休す！」（新潮文庫、1960年、56頁）

「まあ、バルカン半島の国じゃありませんの。もうお上げだわ」（光文社古典新訳文庫、2017年、68頁）

『オリент急行殺人事件』が書かれたのは第一次世界大戦が終わった後です。バルカン地域に対するマイナス・イメージは、「サラエヴォ事件」によって更に明確になっていったことでしょう。

第一次世界大戦の「後始末」

バルカン地域の政治情勢、そしてバルカン地域をめぐる国際情勢は第一次世界大戦の結果、大きく変わります。その様子は、1910年のバルカン地域に関する[地図2]と第一次世界大戦後の1930年のバルカン地域に関する[地図3]を比べて御覧になると、一目瞭然でしょう。第一次世界大戦前のバルカン地域に歴史的に強い影響力を及ぼしてきた大国は既に触れてきたオスマン帝国、ロシア帝国、ハプスブルク帝国、そしてハプスブルク帝国の背後にいたドイツ帝国でした。この4帝国のうち、ドイツ帝国、ハ

[地図2]



月村太郎『バルカンの政治』（東京大学出版会、2023年）xi頁

プスブルク帝国、オスマン帝国は敗戦国となり、ハプスブルク帝国とオスマン帝国は解体されました。ロシア帝国は第一次世界大戦終了前にロシア革命によって崩壊しました。これらに比べれば、ドイツ帝国の領土的な変動は小さかったとは言え、東部の領土が大幅に削られた上、政治体制が帝制から共和制へと転換しました。

バルカン地域のみならず、国際政治全体として考えてみると、これらの4帝国の消滅の「後始末」には随分と時間がかかっていることが分かります。ドイツ帝国については、ナチス・ドイツの領土拡大と敗戦、冷戦時代の東西分裂を経て、1990年の東西ドイツ統一によりどうやら「後始末」は終わりました。他方で、ロシア＝ウクライナ戦争は、ロシア帝国崩壊の「後始末」が継続中であることを示しています。また、ガザの混乱からも分かるように中東問題には解決の兆しすら見られず、中東問題の根本的原因はオスマン帝国解体の長引く「後始末」なのです。

ハプスブルク帝国解体の「後始末」も時間がかかりました。ハプスブルク帝国の南部はバルカン地域を含んでおり、第一次世界大戦後に建国されたユーゴスラヴィア王国の版図には、かつてのハプスブルク帝国領のスロヴェニア、クロアチア、ボスニアに加え、独立王国であったセルビア、モンテネグロが含まれていました。ユーゴスラヴィア王国は、国内の民族対立と経済的行き詰まりから政治的混乱に至り、1941年4月にドイツ、そしてその同盟国であったイタリア、ハンガリー、ブルガリアの侵略を受けた結果、国土は「四分五裂」となります。そのなかで、最大の領域を占めたのはナチス・ドイツの傀儡国家であったクロアチア独立国でした。クロアチア

[地図3]



月村太郎『バルカンの政治』（東京大学出版会、2023年）xii頁

独立国内では厳しい弾圧が行われました。また、旧ユーゴスラヴィア王国領内では、クロアチア人極右、セルビア人右翼、ユーゴスラヴィア共産党による三つ巴の内戦が発生し、ドイツの占領行政への抵抗運動と内戦の犠牲者は100万人に上ると言われています。現在のクロアチアとボスニアの国境付近に建設されたヤセノヴァツ強制収容所は、「バルカンのアウシュヴィッツ」とも表現されます。ザグレブ留学時代に私を指導してくれた先生は、家族全員を殺されたと言っていました。内戦はアルバニアでもギリシャでも起きました。

ヒトラーが1945年4月末に自殺して第二次世界大戦が終わりました。しかし、ギリシャを除くバルカン諸国のユーゴ、アルバニア、ルーマニア、ブルガリアは、ヒトラーに代わる独裁者であるスターリンが指導するソ連のブロックに含まれ、これらの4ヵ国には、各国共産党による実質的一党独裁政権が成立しました。ユーゴとアルバニアはソ連ブロックから離れましたが、それぞれの共産党が独裁政治を行っていました。1989年にソ連ブロックが崩壊し、ルーマニアとブルガリアは民主化し始めました。ソ連ブロックに属していなかったユーゴ、アルバニアはソ連ブロック崩壊の煽りを受けることはありませんでしたが、共産党政権が崩壊するなかで、最初に触れたように、ユーゴは4度の内戦を経て7ヵ国に分裂し、その間の犠牲者は10万人を優に超え、居所を追われた人々は数百万人を数えます。ユーゴの1981年の人口が2200万人強ですので、その激しさは容易に想像できるでしょう。この悲劇が20世紀末のヨーロッパで起きたことから、バルカン地域に対するマイナス・イメージはより深く刻まれることになりました。アルバニアでは急速な自由化の為に経済が崩壊し、「ネズミ講」が1997年に倒産した結果、無政府状態が生まれ、国連軍が派遣される騒ぎとなりました。しかし非常な混乱を経験した両国も、民主化の過程を歩んでいきました。

現在のバルカン諸国

ギリシャ以外のバルカン諸国は、20世紀末に民主主義国家の体裁を整えました。これらの諸国の目標はEU加盟でした。EU加盟には政治、経済、法律などに関わる非常に厳しい加盟基準が存在し、更に全加盟国の承認が必要です。国内システムの大改革を

成し遂げたバルカン諸国のいくつかは加盟を果たしてきました。加盟した年は、スロヴェニア2004年、ブルガリアとルーマニアが2007年、クロアチアは2013年です。更に、モンテネグロ、セルビア、北マケドニア、アルバニア、ボスニア、モルドヴァは加盟候補国となり、加盟への手続きを進めつつあります。ギリシャは軍事独裁体制を経験後、EUがまだECであった1981年に加盟しています。

バルカン諸国は、国家安全保障の保証を求め、NATOへの加盟希望も表明してきました。NATO加盟についても加盟基準がありますが、EUほど厳しくはありません。2004年にスロヴェニア、ルーマニア、ブルガリア、2009年にアルバニア、クロアチア、2017年にモンテネグロ、2020年に北マケドニアが加盟を果たしています。ボスニアも加盟を希望しています。コソヴォやモルドヴァも加盟の希望を表明していますが、コソヴォを国家承認していないNATO諸国もある為に加盟への道のりは遠く、モルドヴァもウクライナの隣国である為に直近の加盟は難しいことでしょう。また、セルビアは、1998年にNATOに空爆されている為に、加盟を希望していません。

このようにして概観してみると、バルカン地域における第一次世界大戦終了の「後始末」も全般的にはほぼ終わったようですが、バルカン諸国は新たな問題も抱えています。第一の問題は「労働力」の流出です。ヨーロッパ先進国と比較すると、大半のバルカン諸国のひとり当たり国民所得は低く、国外での「出稼ぎ」を希望する人々が多数います。ヨーロッパ先進国の多くは労働力不足に悩んでいます。その結果として、バルカン諸国から大量に「労働力」が流出しているのです。流出していく人々は、技術なり語学なり、一定の能力を持っています。そうした能力を持たない人々が「出稼ぎ」できない一方で、出国した人々のなかには、一時的な「出稼ぎ」ではなく先進国に長期間住むことを計画しているひともいます。外国で稼いだお金を故郷に送金しない場合もあると聞きます。出国できずに貧しいままの人々には、欲求不満のはけ口を求める傾向があります。その対象はしばしば様々な少数派です。現状に不満を持つ人々が、少数派に厳しく当たる姿勢は、フランスやドイツ、更には米国でも目立つ現象であり、バルカン諸国でも同様です。

出国できずに国内に残留している人々が頼るの

は、昔ながらの親戚や友人などに絡む人間関係であることが多々あります。共産主義時代のみならず、それ以前の遙か昔から続いてきた地域主義や恩顧主義は、バルカン諸国では未だに根強く見られます。そこに貧しさが絡むと、公的ルールへの遵守がしばしば軽んじられます。以前によくあった事例を挙げてみましょう。消費税をめぐる脱税です。100円の商品に20%の消費税がかかるとすると商品価格は120円になりますが、消費税をかけずに売る、例えばレジを通さずに売るとして、110円で売買すれば、売り手も買い手も10円ずつ得をすることになります。結果として、10円の損害を被るのは売り手からも買い手からも遠い存在の国家になります。庶民のレベルでこうした行為が横行するならば、社会においてより上位の役職を占め、より大きな権力を握る人々の間で、汚職が起きがちであることは十分に理解できることです。逆に言えば、「役人の子はにぎにぎを良く覚え」の例えのように、有力者の行動を見て、これくらいならば、という意識でこうした行為が起きてきたのかもしれませんが。バルカン諸国では、有力政治家や国家社会のエリートの汚職が実に頻繁に起きていました。

先進国の社会では色々な公的ルールを遵守することが求められます。それに辟易することもあります。このような日本からバルカン諸国へ調査に行こうとすると、メールの返事が全く来ないとか、直前に約束が変更されるなど、苛々することが多々あります。さすがに飛行機の国際便が大幅に遅れることは余りありませんが、特急列車の数時間の遅れは頻繁にあります。いまこの原稿を書いている私は、慣れてるとはいえ、またも苛々のまっただ中にいます。あと1週間後に出発する出張の用務内容が確定できないのです。

とはいえ、現地に行けば、「朋あり遠方より来きたる、また楽しからずや」と言わんばかりの笑みにのんびりと癒やされることも確かです。苛々とのんびりの違いを楽しみつつ、もう少しバルカン諸国とお付き合いしていきたいと思っています。

自治研センター法人格取得40周年記念

韓国・富川市民音楽団
「ウマクノリト」コンサートを開催

当センターに事務局を置く川崎・富川市民交流会は、コロナ期に中断していた相互交流を一昨年から再開しました。昨年5月に富川市を訪問した際、富川市民音楽団「ウマクノリト（音楽のひろば）」から川崎市で公演ができないかと打診があり、麻生区で市制100周年事業が計画されていることから、その事業に参加することで受け入れ準備を進めてきました。



一行14名は、1月31日（金）に来日し、2月3日（月）までちょうど韓国では旧正月の休み期間に入ったため、小学生やそのハルモニ（祖母）も含め多彩な顔ぶれとなりました。2月1日（土）は「あさおの川崎100周年祭」の一つの「カフェ・グランデあさお」に参加しました。川崎市制100周年を祝う手製のお揃いの髪飾りを付けたウマクノリトは、麻生市民館大会議室で「あさお芸術のまちコンサート推進委員会」と共催で昭和音楽大学の卒業生を中心とした「リリー・クインテット」と共演しました。11月に自主公演したミュージカル「陶唐洞（トダンドン）の夜」のナンバーを披露したほか、合同でアリランを奏でました。また、イベントのフィナーレでは、劇団民藝の俳優、日本オペラ振興会の育成部の方達と共に観客と一体となって、韓国の愛唱歌でTV番組イカゲームで日本でも話題になった「まるくまるく（トゥングルゲトゥングルゲ）」や「幸せなら手をたたこう」を合唱し、麻生区の市民との交

流を深めました。

翌2日（日）は、在日コリアンが多く住む桜本のふれあい館で午前中リハーサル練習を行い、午後から在日大韓基督教会川崎教会で単独のコンサート行いました。礼拝堂をお借りした演奏は、聴衆の中に在日コリアン市民も多く参加し、ミュージカルナンバーに加えて「トラジ」や「アリラン」など韓国の民謡の演奏では、ふるさとを偲び涙を浮かべながら声を合わせて歌うなどの感動的な場面もあり、和気藹々の公演となりました。

※カフェ・グランデの映像をご覧ください。 「NPO しんゆり芸術のまちづくり」のホームページから見るができます。



タウンニュース 川崎・幸区版 1/31号

また、両会場ではこれまでの川崎市と富川市の友好都市交流や市民交流会を紹介したポスターも掲示され、多くの市民に理解を深めていただきました。

川崎・富川市民交流会では、このような文化交流や高校生交流ハナ、スタディツアーなどを行っています。今年は友好都市締結30周年にあたることから、その記念行事や来年3月には多文化共生施策について意見を交わす富川市ツアーを計画しています。

（文責・板橋洋一）



おすすめの本



この本を手にとってくださいました
あなたにお聞きしたいのです。

「私がしたことは殺人ですか？」

須田セツ子

(元・川崎協働病院呼吸器内科部長、
現・大倉山診療所長) 著

青志社 2024年2月3日発行



1998年11月に川崎区桜本の協同病院で起きたぜんそく患者の死について、3年後に患者家族から医師に殺されたとの訴えがなされた。救急医療の甲斐もなく植物状態になってしまった患者の延命治療を担った呼吸器科の医師は患者と14年間ぜんそく治療にあたっていて両者の信頼関係があったという。救急治療にあたっては主治医のいる協同病院に搬送された。心配停止状態で運ばれ一命はとりとめられたものの、その後も意識の回復はなかった。医師は、従前の会話から延命治療を望まないとの患者の意向を尊重し、患者の体が内部から朽ちていく状況から、家族同意のもとに延命治療をせず、気管につなぐチューブをはずし、自然死に至ることを選択した。だが、想定外に患者が苦しみその発作を抑えるために投与した薬品の使用を巡って、医師が殺人罪を犯したか否かが争点になった。裁判は2003年3月から2009年12月までの6年9か月続き最高裁まで争われた。だが、控訴審の判決通り懲役1年6か月、執行猶予3年の刑が科された。安楽死か尊厳死かが争われた事件で、医師が敗訴したことになる。

本書はその被告である医師が、2011年に同名のタイトルで出版したものを13年後に新版として再び世に問うたものである。終末期における「患者の自己決定権と医者の治療義務の限界」が治療行為の事実を巡って争われた。その後、同様の事件が起き、2007年5月に厚生労働省は「終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン」を策定したものの、法律の制定が行われないうまま、未だにその解は示されていない。

著者は、なぜ13年ぶりにこの本を再刊したのだろうか。本書の帯には「人口の3割が高齢者という超高齢社会において川崎協同病院事件をあらためて振り返ることは少なくない意味がある。—中略—本書

をきっかけに終末医療への考察を深めてくだされば」とその意図が示されている。

二つある。一つは、筆者も昨年古希を迎え、そろそろ終活を考えている。身近にある物や人間関係の整理、エンディングノートの記載などである。その中で自らの終末期医療や葬儀についても考えなければならぬ。これまで親族や友人などの死に直面した経験を参考にしながら、生前に選択しようと思う。

もう一つ、この事件は、小説や映画になって紹介されている。いずれも医師もしくは弁護士の本職をもった作家が自らのモチーフをもとに、場所や登場人物を脚色しながら、安楽死、尊厳死を説いていく。すべてを客観的に説明できない情緒的な課題でもあるので、そのテーマは嫉妬や情愛を絡めながら進められ読みごたえがある。ただ、川崎協同病院という現地を避けてしまったことから、ぜんそく患者が公害病認定患者であり、共産党系の医療生協と支持者が重なる公明党・創価学会の政治的対立がこの事件を増幅させている事実を描いていないことが残念だ。

個々の命の尊厳は安定した社会であるからこそ問われているものと思う。今この時にも戦火の中でも簡単に大量の命が奪われ、貧困による飢餓で多くの命が失われ、また閉塞した社会の中で多くのものが生きづらさを感じて自死に至る現代社会の病理は、人智によって解決することはできないのだろうか。
(文責・板橋洋一)



終の信託

朔立木著 2005年6月光文社刊
当時「命の終わりを決めるとき」

映画 2012年10月公開
周防正行監
出演 草刈民代、役所広司他



善医の罪

久坂部羊著 202年10月文藝春秋刊

川崎市の主な動き 2024年12月～2025年3月

2024年12月

- 7日 在日クルド人ヘイトの闘いに連帯 市条例制定5周年記念集会**
ヘイトスピーチを刑事罰で規制する「市差別のない人権尊重のまちづくり条例」制定5周年記念の集会在、市労連会館（川崎区）で開催された。主催の市民団体『ヘイトスピーチを許さない』かわさき市民ネットワークは、過去5年で条例違反となる露骨なヘイトスピーチが一度も行われていない成果を強調、引き続き共生のまちづくりを推進すると宣言。現在、深刻化している川口市、蕨市での在日クルド人への執拗なヘイトの実態と差別に反対する埼玉市民の闘いに連帯を表明した。
- 12日 川崎フロンターレ鬼木監督に市民特別賞**
サッカーJ1川崎フロンターレの黄金期を築き、今季限りで退任した鬼木達監督に12日、川崎市市民特別賞が贈られた。同監督は2006年フロンターレで現役を引退後、育成・普及コーチ、トップチームコーチを務め、17年にトップチーム監督に就任しJ1リーグ初制覇、24年までの8年間に主要7タイトルを獲得する偉業を成し遂げた。この日、同監督の古巣J1鹿島アントラーズの指揮官就任が発表された。
- 16日 学校給食無償化求め陳情 来年度給食費値上げに市民団体**
市教育委員会が物価上昇を理由に2025年度から小中学校などの給食費の値上げを決めたことに対し、市民団体「学校給食の無償化を求める川崎市民の会」は16日、陳情と賛同署名計2万7842筆を市議会に提出した。給食費の改定は小学校が6年ぶりで1食270円から317円、中学校が7年ぶりで320円から376円に値上げする。同会は、無償化は東京の全23区など全国でも4割が実施しており、市は黒字なのに流れに逆行しているとしている。
- 20日 今年の漢字は「百」 市制100周年の年で福田市長**
福田市長は20日の定例記者会見で、今年の漢字に「百」を選んだと述べた。2024年は市制100周年の記念の年であり、百花繚乱ではないが多彩な方々による多彩に展開されたイベントや交流事業に参加して市制100周年を祝い、市が大切にしている多様性を大いに感じた1年だったと話した。
- 26日 「#かわさき推しメシ」2024グランプリ店舗 市民投票等で決定**
飲食店等の自慢の一品から市民投票等でグランプリ店舗を決める「かわさき AKINAI AWARD #かわさき推しメシ」の最終審査会が26日、開かれた。市内132店舗のエントリーがあり、食の専門家による実食審査の結果、グランプリはそれぞれ一般部門「ブラッスリーほっぺ」（幸区鹿島田）の「よくばりベーコンナポリタン」、デカ映え部門「海鮮重 御殿様 宴」（多摩区西生田）の「オモウマグロ重」、スイーツ部門「花冠 Le et Salon Gastronomie」（多摩区登戸）のカスタードプリンとなった。

2025年1月

- 6日 10年後の世界観を共有し未来への責任を 市長年頭あいさつ**
福田市長は仕事始めの6日、市職員向けに年頭の挨拶を行った。市制100周年の昨年の取組みを振り返り、記念事業などを多くの市民や企業と連携し、若手職員が企画から実行まで生き生きとやっていたと評価。2025年度に策定する新たな総合計画を「未来に対する責任」として、10年後の川崎がどうあるべきかの世界観を共有し、101年目からのまちづくりを多様なパートナーと組むことで、レベルの高い都市経営を行う飛躍のチャンスにと訴えた。
- 13日 「二十歳を祝うつどい」6,998人参加 とどろきアリーナ**
「成人の日」の13日、市の「二十歳を祝うつどい」が市とどろきアリーナ（中原区）で行われた。今年の対象者は14,276人、午前と午後の2回計6,998人が参加した。福田市長は「考えていることを深く掘り下げ、どういう人間になりたいか、節目節目で自身を見つめ直し、これからの人生をしなやかに進んでほしい」と挨拶した。洗足学園音大出身のシンガーソングライター足立佳奈さんがゲスト出演し、参加者と共に歌う場面も見られた。
- 17日 「開かずの踏切」など9ヵ所除却 南武線高架化着手29年度**

市は17日、県から都市計画事業認可を受け、2039年度までにJR南武線の矢向一武蔵小杉間の約4.5キロ（幸区、中原区）の高架化の完成を目指すと発表した。工事着手は29年度からで、鹿島田踏切や向河原駅前踏切など「開かずの踏切」5か所を含む9か所の踏切を除却する。高架化は市が05年に検討、07年には早期実現の署名（約5万5千人）があったが、20年度の都市計画決定予定がコロナ禍などで昨年8月にずれ込んだ。総事業費約1387億円、JR約106億円、国と市が約640億円ずつを負担。

18日 「心身障害者の成人式」今年で幕 183人参加

市立特別支援学校の卒業生らが集う「市心身障害者二十歳を祝う会」が18日、高津市民館で開かれ新成人183人が門出を祝った。中央支援学校や田島支援学校、聾学校などの卒業生に恩師が一人一人名前を読み上げた。市主催の成人式への出席が難しい障害者向けに1989年から実施してきたが、市は共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育の重要性が叫ばれるなか、心身障害者の枠組みでの開催の続行は難しいと判断、開催意義などを検証の上、今回で幕を下ろす。

26日 ミューザ川崎シンフォニーホール・チーフ・アドバイザー秋山和慶さん死去

60年間にわたり音楽界の第一線で活躍しミューザ川崎シンフォニーホールの様々な企画に携わった指揮者の秋山和慶さんが26日死去、84歳。桐朋学園大学で斎藤秀雄に師事、1964年東京交響楽団でデビュー、84年サイトウ・キネン・オーケストラ発足に小澤征爾と共に尽力。2003年～05年市市民文化大使、04年～ミューザ川崎シンフォニーホール・チーフ・ホールアドバイザー、07年市文化賞受賞。

27日 路線バスの自動運転「レベル4」へ 実証実験開始

市は27日、2027年度から一定条件下で無人運転可能な「レベル4」の自動運転バスを走らせるため、バッテリー性能を高めた最新型の電動バスを使用して実証実験を始める。人が走行補助する「レベル2」を都道府県間ルート全国初の「羽田連絡線」（往復約8.8キロ）で、完全手動の「レベル0」を多くの人が行き交う「川崎病院線」（同2.6キロ）で行う。実験の背景には深刻なバス運転手不足があり、事前に募集した市民らを対象に28日～2月7日まで無料の試乗会（740人予定）もある。

30日 大型2種免許「未経験者枠」新設 市バス運転手確保強化へ

市交通局は30日、運転手の人材確保を強化するため、2025年度採用から大型自動車第2種免許保有者の採用拡大を目的に「バス乗務未経験者枠」を新設、また運転手と整備員を対象に出産や介護などで退職し、復職を希望する職員の採用選考（「ジョブ・リターン制度」）を実施すると発表した。未経験者枠は2月の募集で5人程度の採用を見込み、「ジョブ・リターン制度」は2月10日以降通年募集。

31日 等々力緑地再整備事業費1232億円に 当初の2倍

等々力陸上競技場を含む等々力緑地（中原区）の再編整備計画で、市は31日の市議会まちづくり委員会で事業費の想定額が最大で当初の2倍近い約1232億円になる見通しを示した。事業を担う特別目的会社「川崎とどろきパーク」（KTP）との2023年契約時の事業費約633億円が物価上昇や土壌汚染対策等で約1140億円（昨年9月時点）に膨らむと試算、市に差額分の予算措置を要望。市は契約を継続しつつも、事業費の精査、施設内容の変更も検討するとしている。

2月

4日 朝鮮学校児童への投稿にヘイト初認定 市審査会17件

市差別防止対策等審査会（会長・吉戒修一弁護士）は4日、ヘイトスピーチ禁止条例に基づき、インターネット上の投稿17件を民族や国籍を理由とした「差別的言動」と認定した。投稿は昨年10月で、市内の朝鮮学校の児童に対して「いつ帰国されるんですか？」、市内在住の在日コリアン女性に対して「日本を構成する因子ではないし、日本人の仲間でも友人でもない」などの内容。朝鮮学校の児童に対する書き込みがヘイト認定されたのは初めて。

6日 「生命を守る安全・安心予算」 25年度予算一般会計8927億円

市は6日、2025年度当初予算案を発表した。防災対策や子育て支援を重点に福田市長は「生命を守る安全・安心予算」と名付けた。一般会計総額は過去最高の8927億円（前年度比2.5%増）。市税収入は4年連続過去最高の4048億円（同5.0%増）、ふるさと納税制度による市税流出149億円、流入38億円を見込む。歳出は義務的経費（人件費・扶助費・公債費）が過去最大の5669億円（同18.4%増）で歳

出全体の63.5%。重点施策として災害時のトイレ対策に2億2799万円、妊婦健康診査支援に16億5209万円、子育てアプリのリニューアルに3022万円などを計上。

10日 修繕費用かさみ「市民プラザ」閉館 26年度末

市は10日、文化・健康の増進などを目的とした「川崎市民プラザ」（高津区）を2026年度末で閉館すると発表した。市民プラザは1979年の開館、築45年が経過して老朽化や耐震性の不足が目立ってきた。市は全館休館の大規模修繕で約40.8億円、部分的修繕で約9.2億円の費用がかかり、さらに耐震補強工事には約14億円かかることから現施設の維持続行は合理的ではないと判断、今後の施設整備の考え方を25年中に示す予定。23年度利用者は約24万人。

17日 キムチ販売でギネス記録認定 「おつけもの慶」 8時間5661個

キムチ専門店「おつけもの慶」が川崎アゼリア中央広場で16日、キムチの販売のギネス世界記録に挑戦。これまで記録はなく認定条件は「8時間で2500個」。午前11時の開始早々長蛇の列ができ、午後1時頃目標の2500個を超え、用意していた5000個もなくなり午後5時40分白菜キムチ300缶（千円）計5661個を完売。ギネス公式認定員が午後7時過ぎ「8時間で最も販売されたキムチ」と発表した。同店は2003年開店、川崎区内に直営店7店舗あり、18年に川崎、19年に神奈川の名産品に認定。

18日 庁舎移転に伴う不用品販売 事務机等メルカリで

市は18日、フリーマーケットアプリ「メルカリ」を使って昨年の市役所庁舎移転に伴い不要になった事務機や応接セットなどの販売を開始した。これまでは市内の町内会などへの譲渡による再利用を進めてきたが、最終的な取り組みとして事業者が出品できるサービス「メルカリShops」での販売に着手。全国で51自治体目の取り組みで、庁内の不用物品の販売は政令指定市初。初期費用等はなく手数料として売れた商品価格の10%をメルカリに支払う。市は30～40万円の収入を見込む。

22日 岡本太郎賞に仲村さん 房総半島で集めた砂で作品

「第28回岡本太郎現代芸術賞（TARO賞）」の入選者24人が発表され、最高賞の岡本太郎賞は579点の中から千葉県船橋市の仲村浩一さん（25）の「房総半島勝景奇覧/千葉海岸線砂旅行」が選ばれた（授賞式22日）。房総半島で集めた砂を張り付けたものと、その旅で印象に残った景色や文化などを描いたアクリル画をセットにしたもの。次点の岡本敏子賞は北海道旭川市の斎藤玄輔さん（50）の東日本大震災の被災地をテーマにした立体作品「語り合う相手としての自然」。

26日 新アリーナ予定地を期間限定公園に 11月までDeNA

DeNA（東京都）は26日、京急川崎駅（川崎区）から徒歩数分の一画に建設する1万5千人規模の新アリーナ予定地（昨年3月閉校の「KANTOモータースクール川崎校」）に、アーバンスポーツなどが楽しめる公園「Kawasaki Spark」としてプレオープンし、11月上旬まで市民に無料開放する。自動車教習所の跡地の地形を生かし、3対3のバスケットボールやスケートボード、ストライダーができるほかパルクールのコースも設置。今後はスポーツの体験会や音楽・アートのイベントも開催予定。

3月

3日 引っ越し手続きスマホで一括申請可能に 3月から

市は3日から引っ越しに伴う電気、ガス、水道などの住所変更を民間ポータルサイト「引越れんらく帳」を利用してスマートフォンやパソコンから一括申請できるサービスを始める。手続きの煩雑さの解消や区役所窓口の混雑緩和が目的で、国が推進する引っ越しワンストップサービスの一環。首都圏自治体では初。転出前自治体への転出届提出もマイナンバーカードがあれば可能だが、転入届提出は従来通り窓口で行う。

12日 体罰事案対応で市教委へ勧告 市人権オンブズ

市条例で設置の人権救済機関「市人権オンブズパーソン」の飛田桂弁護士は12日、小田嶋満教育長に対し、2023、24年度に体罰や不適切な指導が疑われる事案を調査、人権侵害行為が認められるとして是正を勧告した。理由として、「一部に同一教員による体罰等が繰り返された。子どもを守るべき教員の攻撃的言動による傷つきは看過しがたい。体罰の判断基準がなく、当事者の言い分に齟齬があると事実認定しないまま単に不適切な指導があったに過ぎないとしている」などを挙げている。

14日 監査は前例踏襲的で機能せず 母子育成会の検証報告書

社会福祉法人「母子育成会」（川崎市）の元理事長が法人の金約8億5千万円を私的に流用していた問題で、市は14日、同法人への監査などについての検証報告書を公表した。県から市に監査権限が移った2016年度から経営状況が厳しいことを認識していたが、監査は同じ項目を前例踏襲的に行い、特別監査への切り替えや改善勧告等の措置をとらず、組織的な情報共有も怠っていた。理事などに市の元幹部職員が就任していたが、監査への働きかけなどは確認されなかったとした。元理事長については同法人が刑事告訴し、県警が捜査を続けている。

15日 南武線「ワンマン運転」化 ご当地駅メロ「川崎市歌」「Jupiter」など廃止へ

JR東日本は15日のダイヤ改定に伴い、南武線のワンマン運転がスタートすると発表した。乗務員のワンマン化に伴い、「Jupiter」（武蔵溝ノ口駅）や「川崎市歌」（川崎駅）などの発車メロディーが流れなくなる。これまでは車両最後部付近のホームドアにあるスイッチを車掌が押していたが、今後は車掌がいなくなり運転士が運転台のモニターを操作して全駅共通のメロディーを流す方法に切り替える。市内の南武線のご当地駅メロは7駅11曲（稲城市矢野口駅を除く）。

20日 6年ぶり115校目の市立小学校 新川崎地区に新設

大規模マンションの開発で人口急増の幸区新川崎地区で、4月に開校する市立新小倉小学校の竣工式が20日、行われた。市内115校目の市立小学校の新設で2019年度の小杉小（中原区）以来6年ぶり。総数約2500戸のマンション群の建設が進み、初年度約540人の児童が通う。総事業費は約99億円。4階建て普通教室36室、児童数のピーク時（2030年1200人超）に対応し2～4階の多目的教室を普通教室に転換可能。防災活動拠点として体育館には空調を完備、マンホールトイレ15基を設置。

21日 ダンスとバスケの2団体認証 市の「スポーツアンバサダー」

市内を拠点に活動し、国際・国内大会等で良好な成績等の実績があるスポーツ選手や所属団体を認証する「かわさきスポーツアンバサダー」に、ダンスの「KADOKAWA DREAMS」（中原区）と男子バスケットボールの「富士通レッドウルブズ」（中原区）を新たに決定し21日、認定証の贈呈式が行われた。カドカワドリームズはプロダンスリーグ「Dリーグ」で連覇、学校の授業で活用のダンスレッスン動画作成に協力、富士通レッドウルブズは実業団体の強豪で地域のバスケ教室などを展開する。

22日 春開催「都市緑化フェア」3会場で 74万人の来場者見込む

「第41回全国都市緑化かわさきフェア」の春開催が22日から市内3会場（富士見公園・等々力緑地・生田緑地）で始まった。市立小・中・特別支援学校全170校で育てたピオラの花苗1200株などを用意し、秋開催の2倍の6万株を植栽、「ビタミンカラー」をテーマに色をそろえた。富士見公園ではオープニングイベントでダンスチーム「KADOKAWA DREAMS」や昭和音楽大学などがパフォーマンスを披露。4月13日までの期間中フェア全体で約74万人の来場者を見込む。

22日 第2庁舎跡「市役所広場」オープン 市の地勢をイメージ

市役所第2庁舎跡地に「市役所広場」が完成、22日祝賀イベントが行われた。広場面積は約1300㎡で市の東部から西部へ緑濃くなっていく地勢をイメージ、市街地のインターロッキング舗装、多摩川の原っぱの芝生、多摩丘陵の植栽の各エリアで構成。子どもたちが川崎区の長十郎梨、幸区のハナミズキなど7区のシンボルツリーを植樹した。災害発生時には多目的防災スペースとして活用、100Vコンセントや水栓、公衆電話が設置される。同広場オープンで市役所本庁舎一連の整備事業は終了する。

29日 市民ミュージアムお別れイベント「光とアートな館謝祭」

2019年の台風19号で浸水、今年度中に解体工事が始まる旧市民ミュージアム（中原区）で29日、お別れイベント「光とアートな館謝祭」が開かれた。被災後初めて中庭を開放、光の演出、吹奏楽部・ジャズバンドによる演奏、アート体験などで最後のひとときを楽しんだ。同館は1988年オープン、台風により絵画や写真、漫画など約30万点の収蔵品のうち約24万点が被災、約7万8千点を修復、約7万3千点を処分した。現在、多摩区生田緑地での新ミュージアム整備計画が進められている。

※「川崎市の主な動き」は川崎地方自治研究センターのホームページ「市政ウォッチャー」からの抜粋